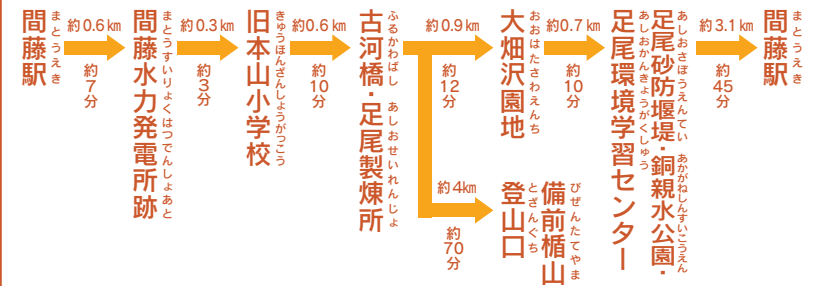


わたりせふるまゝと散策マップ

ま とう

～間藤編～

散策モデルコース：半日コース 約6.2km



松木溪谷
切り立った岩壁が天を突く特異な荒廃地をなしている。



足尾砂防堰堤
荒廃した山々からの土砂流出を防ぐ目的で、昭和30年に完成。ダムの本体には、足尾焼によるカモシカの壁画が設置されている。



銅親水公園

足尾環境学習センター
(裏面参照)

大畑沢園地

足尾製煉所
(裏面参照)

龍蔵寺



天台宗龍蔵寺境内にある旧松木村無縁塔

トイレ 自販機

首都圏自然歩道
(赤銅のみち)

本山坑口跡

至日光

登山口

古河橋
(裏面参照)

間藤水力発電所跡
(裏面参照)

頂上まで
約1時間

備前橋山
1,272
(裏面参照)



旧本山小学校
明治16年開校、平成17年に112年の歴史に幕を閉じた。現在の校舎は、昭和41年完成。

旧本山小学校

渡良瀬川
わたらせ
渓谷鐵道

間藤駅



間藤駅
運がよければ、カモシカが見られる時もある。待合室の隣に陶芸教室がある。

至足尾駅

大畑沢から
松木溪谷をのぞむ

わたらせふるさと 散策マップ

間藤編

見どころ紹介



ふるかわばし 古河橋

明治23年に完成した日本で最も古い道路用鉄橋。長さ50m、幅4.6mのアーチ式鉄橋でドイツ人の設計。日光市指定文化財に登録されている。



あしおせいれんじょ 足尾製煉所

足尾銅山から産出した銅を製煉した工場。昭和29年にフィンランド・オートクンプ社の自熔製煉法を日本で最初に導入した。この方法は粉状の銅精鉱を熱風乾燥して炉頂から落とし、そのまま溶解するもの。炉が運転すると鉱石の発熱だけで燃料が不要になった。また、排煙の亜硫酸ガスは濃硫酸として生産され、煙害も完全に除去することができ、改良を加えながら処理能力を増強した。銅山の歴史と共に歩んだこの製煉所は、常に日本の最先端の製煉法をつくり出しては、国内はもとより世界中から注目を集めた。

あしおかんきょうがくしゅう 足尾環境学習センター

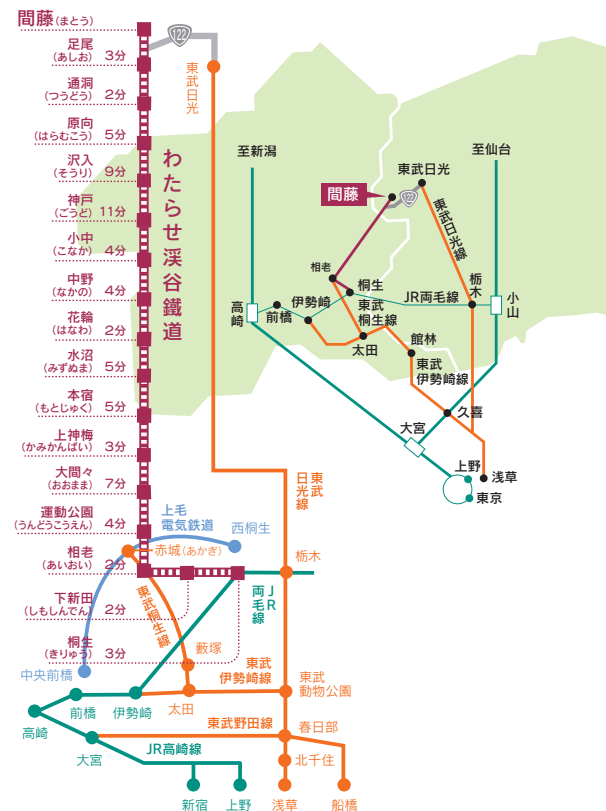
平成12年、銅（あかがね）親水公園内に完成した環境について学ぶことのできる施設。施設内には2つの展示室と研修室があり、写真や年表だけでなく映像を通して足尾銅山の歴史を紹介すると同時に、自然の大切さと環境問題を学べ「銅山のまち」として栄えた足尾を分かりやすく紹介している。



- ・開館日時：4月1日から11月30日まで
午前9時30分～午後4時30分まで（入館は午後4時まで）
- ・入館料：大人200円（15名以上の団体は180円）、
高校生以下100円（15名以上の団体は90円）、未就学児無料
- 連絡先：足尾環境学習センター 0288-93-2525
【指定管理者 足尾に緑を育てる会 0288-93-2180】

まとうすいりょくはつでんしょあと 間藤水力発電所跡

明治23年に造られた水力発電所。堅抗捲揚機・電気ポンプ・電気機関車などの動力として利用された。鉱山では日本最初のもので、残存する煉瓦造りの基礎と直径1mの鉄管の一部が当時の名残りをとどめている。



観光案内など問い合わせ先

- 日光市足尾総合支所 0288-93-3116
- 日光市足尾観光協会 0288-93-3417
- わたらせ渓谷鐵道株式会社 0277-73-2110
- わたらせ渓谷鐵道連絡協議会（桐生行政事務所内） 0277-54-4482

おすすめ情報

備前楯山（標高1,272m）への登山コース

古河橋から登山口まで約4km徒歩70分
登山口から頂上までは約1.5km徒歩60分
足尾銅山の銅のほとんどがこの山から産出された。
5月上旬のツツジ、11月上旬の紅葉の時期が特におすすめ。（写真は頂上から見た男体山方面の眺望）

